

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンまで増加し、30万トン台を維持しながら、平成9年は32万3千トン、平成10年は31万1千トンでした。しかし、平成11年には大きく減少し20万7千トン（速報値）となりました。

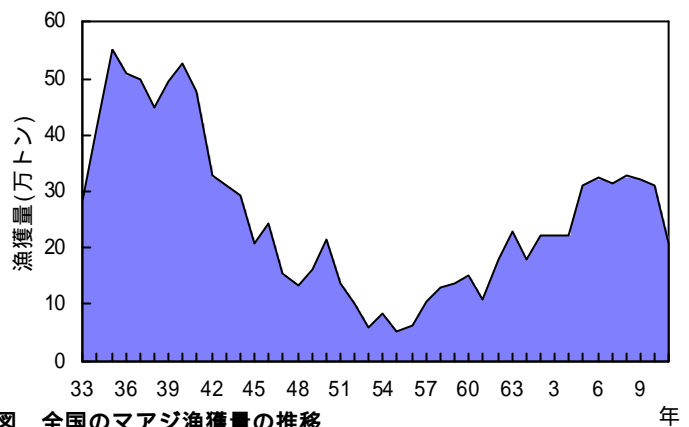


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成12年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖(10月)、阿久根沖(10月)、天草沖(11月)に、薩南海域では、屋久島東(10～12月)、馬毛島周辺(10月)、内之浦沖(11・12月)に漁場が形成されました。

4港計では、10・11月は中アジ(1～2歳魚・平成10～11年生まれ)、12月は豆アジ(0歳魚・平成12年生まれ)主体に688トンの水揚げでした。7月に北薩海域で順調な加入が見られ、前年を上回ったものの、8～11月は前年・平年を下回り、10～12月期は前年及び平年の58%及び22%でした。平成12年生まれの加入群は、平成11年生まれ群より大きいと考えられますが、全体の漁獲量は低調となっています。

3. 平成13年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は豆アジ・小アジ(1歳魚・平成12年生まれ)で、来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

(根拠)

主漁獲対象となる平成12年生まれ群は、平成11年生まれ群より大きいと考えられます。隣接県の加入状況も本県海域同様、前年より良好です。

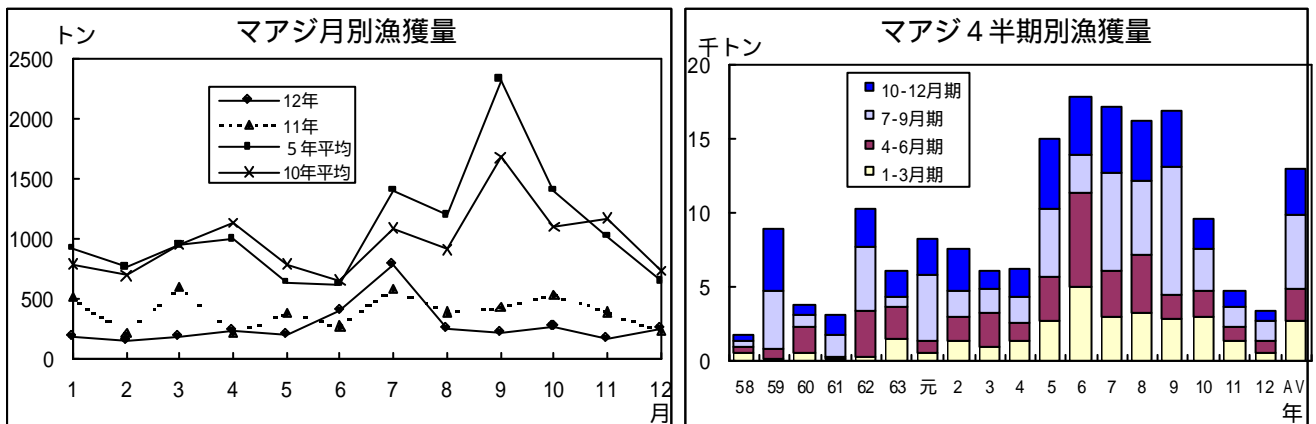


図 マアジ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年12月は20日までの水揚量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成11年は37万6千トン（速報値）でした。

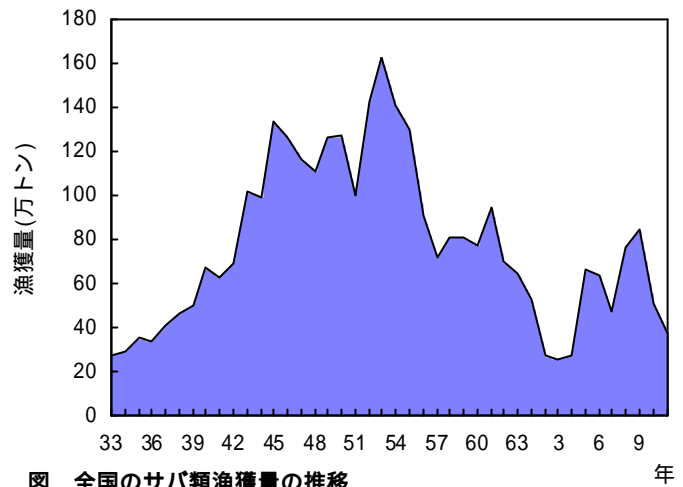


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 平成12年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖(11月)に、薩南海域では、馬毛島周辺(10～12月)、屋久島東(10・11月)、内之浦沖(10月)、種子島南(11月)、野間池沖(12月)等に漁場が形成されました。

4港計では、中ゴマサバ(1歳魚・平成11年生まれ)主体に1,666トンの水揚げがあり、前年及び平年の149%及び50%でした。10・11月は前年を上回りました。

3. 平成13年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中サバ(2歳魚・平成11年生まれ)で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

7～12月期の漁獲状況から、平成12年生まれ群の加入は、平成11年生まれ群より小さいと判断されます。平成11年生まれ群の漁獲も多くは期待できません。

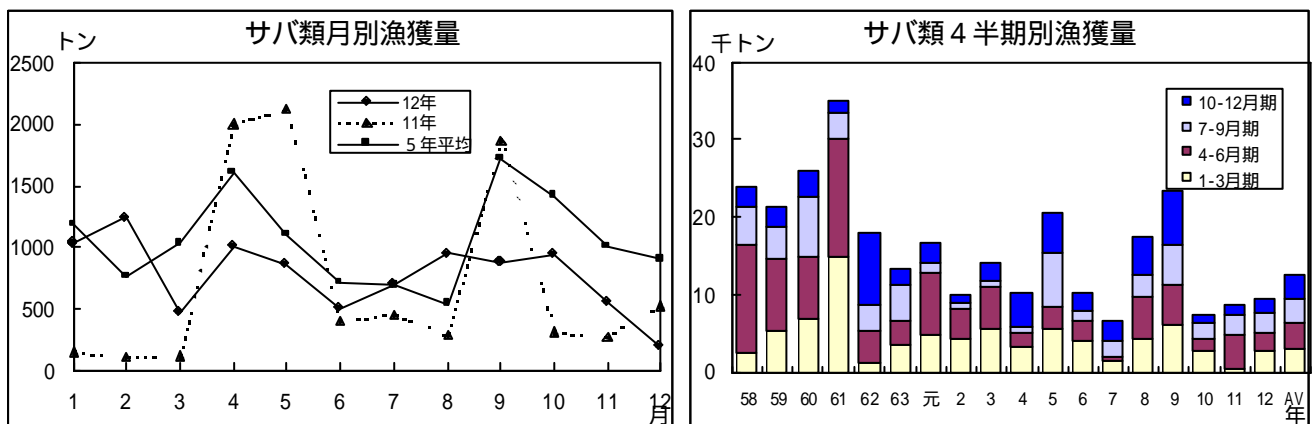


図 サバ類漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年12月は20日までの水揚量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなりました。平成9年は28万4千トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年には若干資源が回復し、34万8千トン（速報値）となりました。

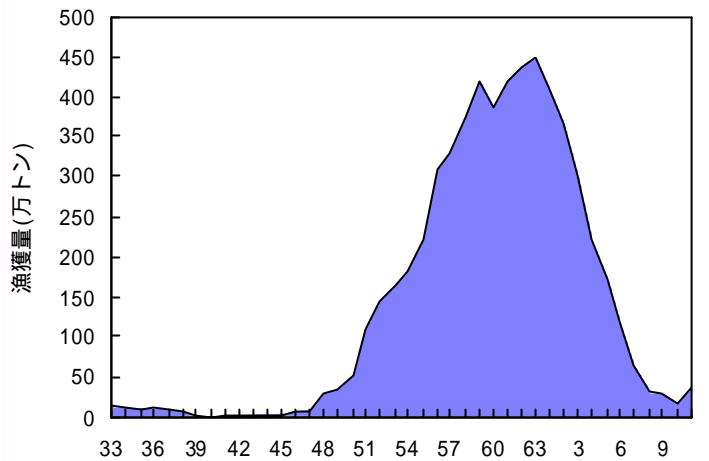


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 平成12年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖(10～12月)、阿久根沖(12月)で、若干の漁獲がありました。4港計では、4.8トンで前年及び平年の5%及び1%でした。低水準期(平成8～11年)の4ヶ年平均値との比較では2%でした。

3. 平成13年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中羽イワシ(1歳魚・平成12年生まれ)で、来遊量は前年を下回るでしょう。

(根拠)

マイワシの資源状態は低水準にあり、まとまった漁獲は見られないと考えられます。

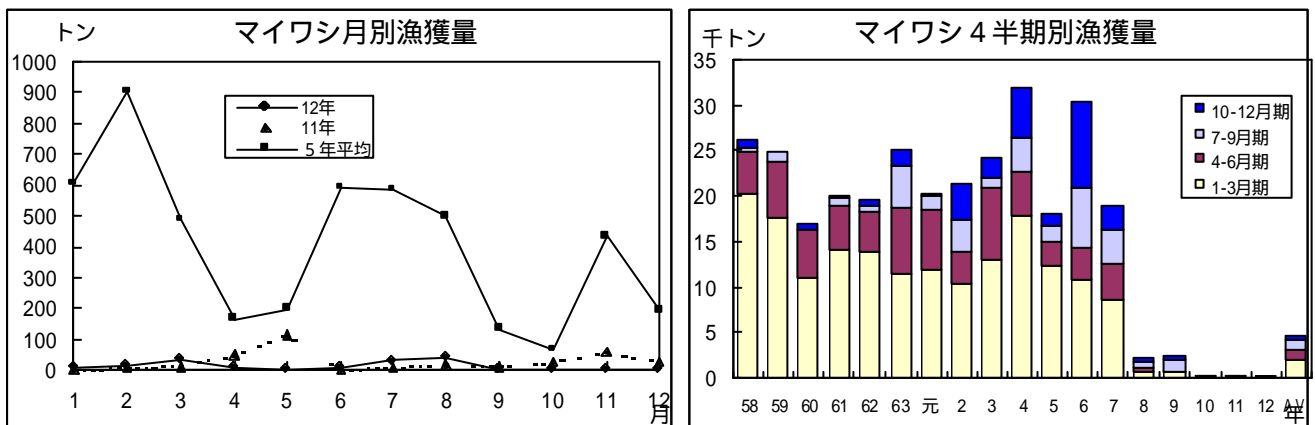


図 マイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年12月は20日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成10年は4万8千トン、平成11年は2万9千トン（速報値）でした。

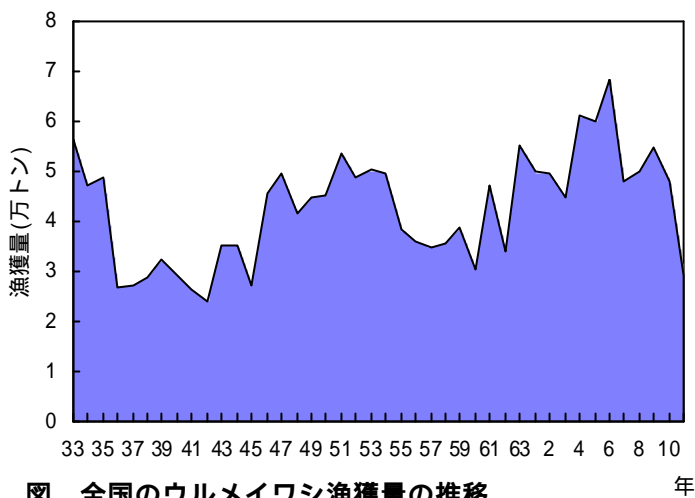


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移 年

2. 平成12年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖(10月)に、薩南海域では、内之浦沖(11月)、種子島南(11月)、馬毛島周辺(11月)等で漁獲がありました。

4港計では、35.3トンで、10～12月期は、すべての月で前年・平年を下回り、前年及び平年の7%及び2%でした。

3. 平成13年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中羽・大羽ウルメ(1歳魚・平成12年生まれ)で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

平成10年12月以降の漁獲状況は低調となっています。

7～9月期・10～12月期の漁模様から、漁獲量の大半を占める薩南漁場への来遊は少ないと考えられます。

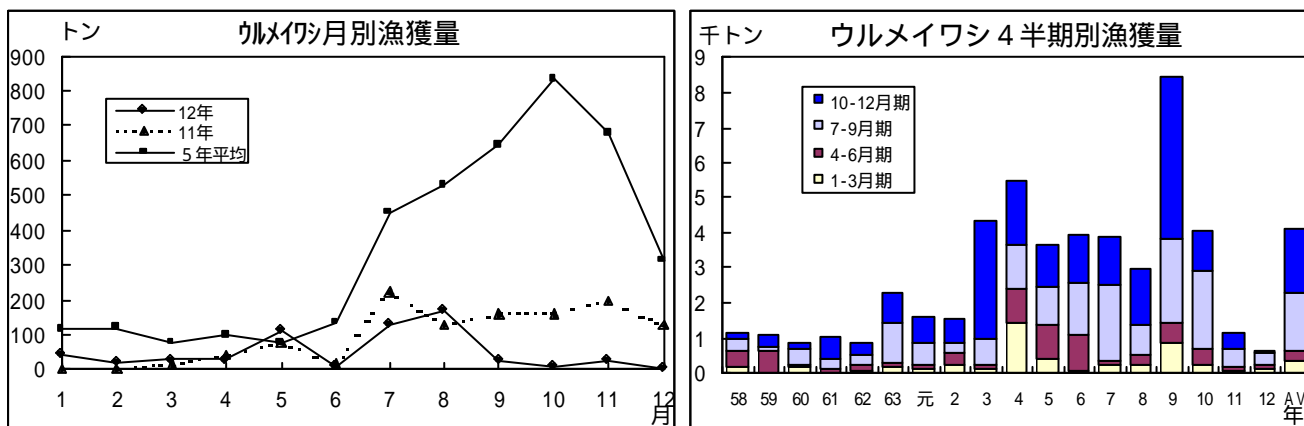


図 ウルメイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年12月は20日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は，昭和48年まで30万トン台で変動していましたが，昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後，徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが，昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン，平成10年は47万トン，平成11年は過去最高の48万トン（速報値）となりました。

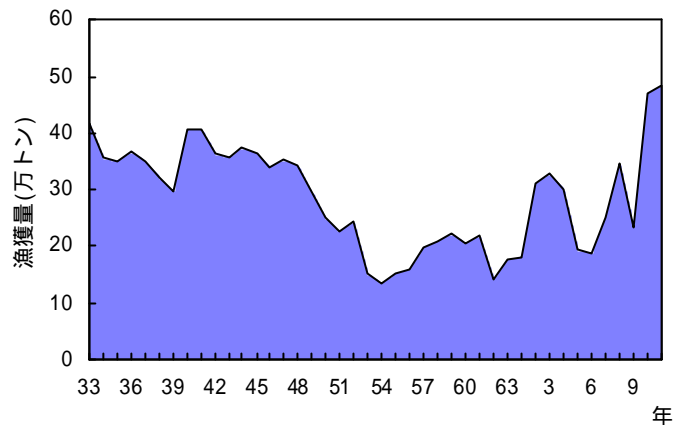


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成12年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の甌島周辺(10～12月)，阿久根沖(10月)に漁場が形成されました。

4港計では，大羽主体に168トンで前年及び平年の74%及び101%でした。11月は前年・平年を上回りました。

3. 平成13年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は大羽カタクチで，来遊量は豊漁だった前年を下回って，平年並みでしょう。

（根 拠）

平成9年11月以降高い来遊水準を維持しています。

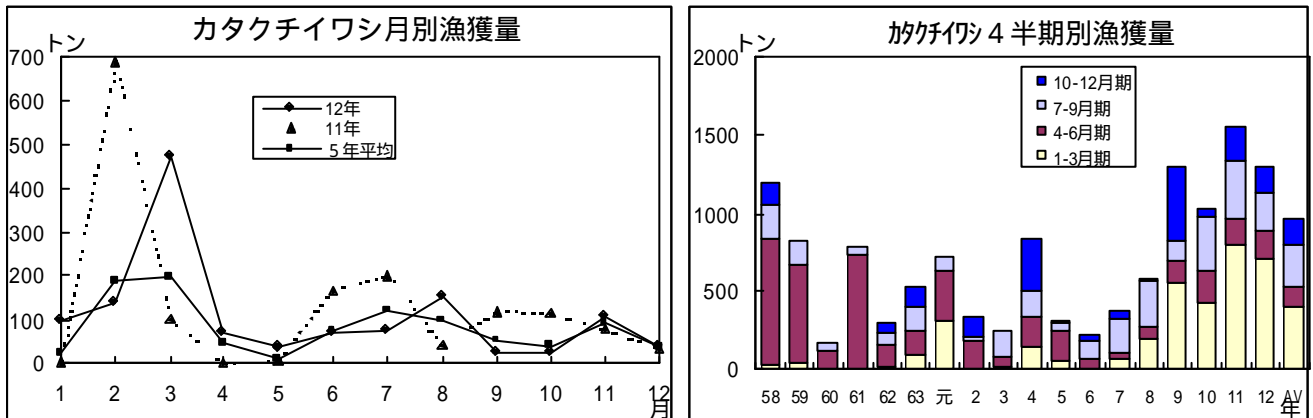


図 カタクチイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年12月は20日までの水揚量を使用。

[その他の魚種]

ムロアジ類 (4 港計)

1. 経年変化及び平成12年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トン进行ピークに減少傾向を示し、平成8年は3,108トン、平成9年はやや増加し3,853トン、平成10年は3,819トン、平成11年は昭和58年以降最低の2,299トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、10～12月期全体では596トンで前年及び平年の62%及び32%でした。

2. 平成13年1～3月期の見とおし

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

オアカムロ (4 港計)

1. 経年変化及び平成12年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トン进行ピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成8年には3,451トンとなり、平成9年はやや減少し3,063トン、平成10年は3,413トン、平成11年は2,076トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、10～12月期全体では685トンで前年及び平年の200%及び71%でした。

2. 平成13年1～3月期の見とおし

来遊量は、前年を上回って平年並みでしょう。

マルアジ (アオアジ) (4 港計)

1. 経年変化及び平成12年10～12月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加し、平成8年は1,083トン、平成9年は684トンと減少しましたが、平成10年は1,062トン、平成11年は再び減少し639トンでした。

主に北薩海域で漁獲され、10～12月期全体では豆マルアジ主体に1,401トンで前年及び平年の1,206%及び281%でした。

2. 平成13年1～3月期の見とおし

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

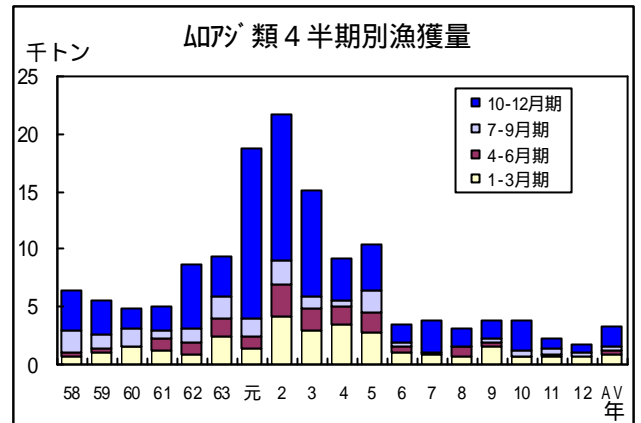
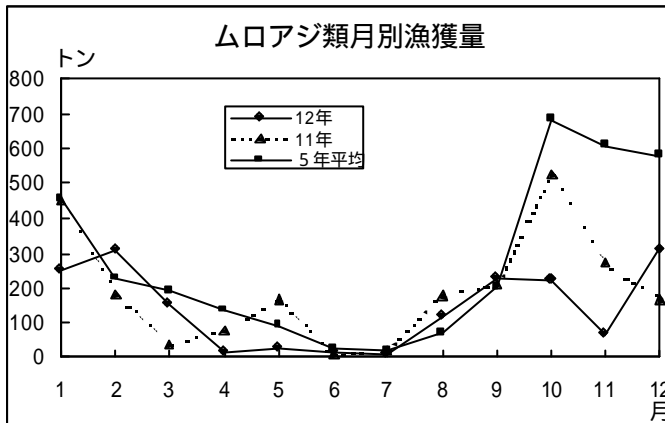


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

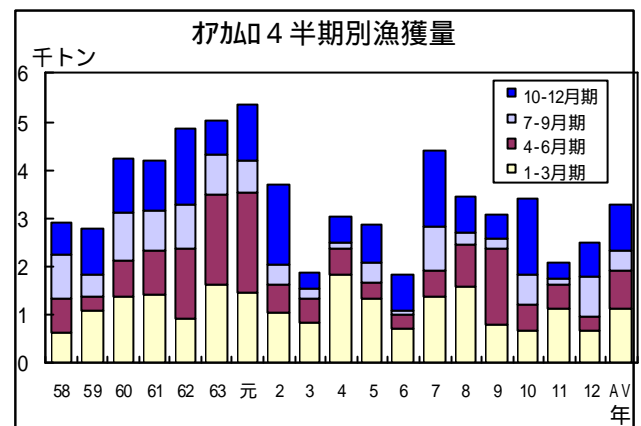
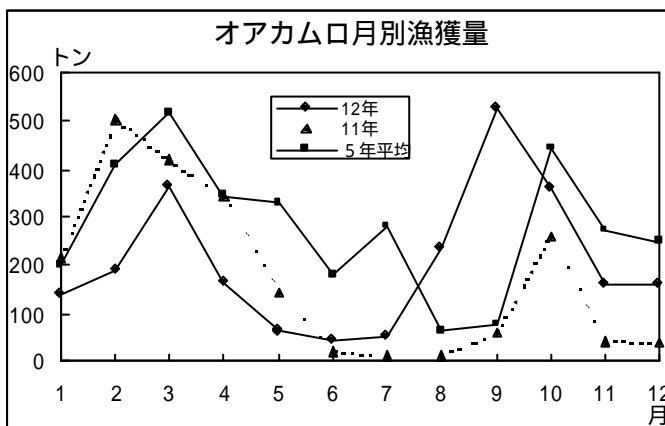


図 オアカムロ漁獲量変化(4港計)

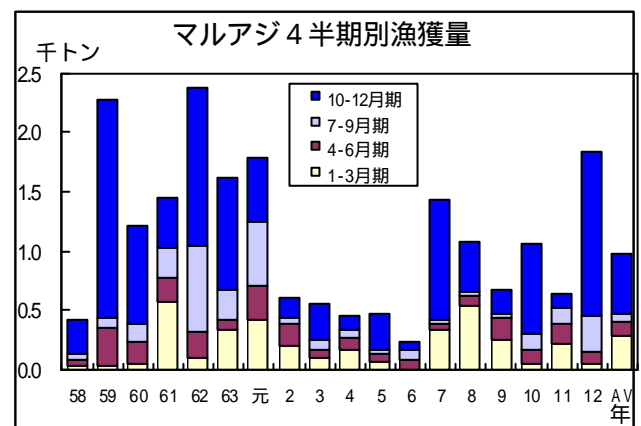
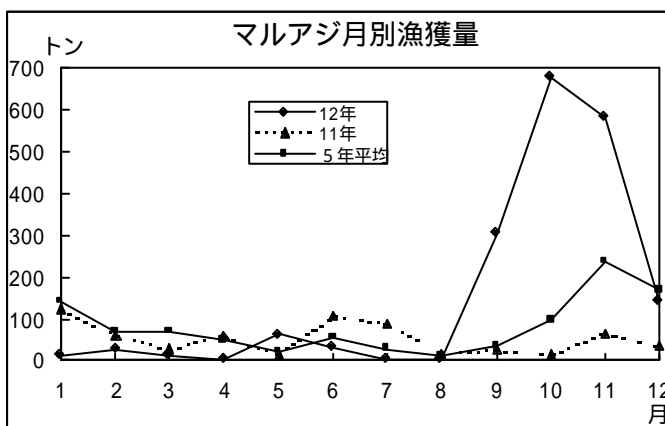


図 マルアジ(アオアジ)漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成7~11年)の平均値,平成12年12月は20日までの水揚量を使用。